自学共育

子どもが主体の学校づくり

栄小中合同通信No.17　2025.12.2

児童会・生徒会の仕組みはどうなるのか？

前回もお伝えしているように、これまで「来年度の児童会・生徒会の仕組みをどうするか？」について小３～中３のメンバーで話し合いをしてきました。11 月の話し合いでは主に「固定の委員会あり」か「固定の委員会なし」のどちらがいいかがテーマでした。ちなみに、これまでと同様の仕組みが「固定の委員会あり」です。一方で「必要な時に必要な委員会（チーム）を作って活動する」のが「固定の委員会なし」です。そこでは以下のような意見が出ました。

【どんな学校を作りたいか】

・みんなが毎日楽しい学校・みんなで助け合える学校・思い通りの学習ができる学校・好きなことに挑戦できる学校・一人一人が個性を出せる学校

【それはどんな気持ち？心は？】

・笑顔になる・ポカポカな気持ち

【そのための児童会・生徒会は？】

〈固定なし〉

・一人ひとりが考えられる

・やりたいことに挑戦

・色んなことに挑戦したい・色んな人と関わる

〈固定あり〉

・固定なしだとやりたい人だけがやるようになってしまうのでは

・今までやってきた地道な活動をする人がいなくなる

・途中で話し合って交代していく・学年の違いでやりずらい？

議論が白熱する中で、小３児童から**「チャレンジが目的なら「固定なし」だし、協力が目的なら「固定あり」だと思う」**と言う**”目的に照らして判断するべき”**との考えが出されるなど、中学生が混じる中でも低学年から堂々とした、そして説得力のある考えも次々に出されていたことに驚きました。また、**「(固定なしではやらない人が出ることを心配していたが）一緒にやろうと声をかければいい」など相手の不安を解消するようなアイデア**も出され、全員による合意形成に向けた建設的な話し合いが続きました。一人一人が活発に意見表明する姿に**「新しい学校を創っていくんだ」という思い**が見える時間となりました。

なぜ、話し合いに時間をかけるのか？

この話し合いには、共育タイムロングを６回分を使っています。つまり全体で 180 分です。みんなが納得できる案になるように工夫を加えていくとどうしても時間が必要です。そこで「多数決ならすぐ決まるのにどうして？」と思われた方もいるのではないでしょうか。

理由は、「みんなで創る学校」だからとも言えますが、言い方を替えれば**「誰の考えも置き去りにしない」**と言うことです。「多数決」という決め方は、時間的効率はいいのですが、多数にならなかった考えは置き去りにされます。**誰も置き去りにされない学校が幸せな学校です。**今時な言い方では「ウェルビーイング」な学校です。そして、今回のように誰も置き去りにせずに話し合うことができる力が「自学共育」の「共育」にあたる「協働性」です。（今回の話し合いでもどんどん鍛えられています）

私たちは、これまで集団で物事を決める際に「多数決」を多用してきました。これからも全く使わない訳にはいきませんが、**よりウェルビーインクな学校となるよう、大切な場面では、「多数決」ではなく全員による合意形成を目指していきます。**

（文責：田中新一）